

非西欧諸国から／への人の移動と市民社会の越境的動態

上杉妙子（専修大学）

本分科会は、非西欧諸国から／への人の移動に伴う市民社会(civil society)の越境的動態に関する人類学的研究の可能性を探る。ここでいう「市民社会」とは、①国家と個人の間に存し、②社交的関係の中で、（当事者が定義するところの）公共心や道徳性、気遣い、互酬性、礼儀、宗教性、連帯感などの社会的価値が生産されるが、③利益の追求を主たる目的とする活動は含まれない領域である。

市民社会研究には、理論的考察に重点を置くものと、特定の市民団体 (civil society organization) に焦点を当てるものとがある。現在用いられている市民社会の概念は近代西欧において形成されたものであるが、非西欧的文脈にも適用され、分析概念として用いられてきた。その適用の立場には、普遍主義から相対主義まで幅がある(Hann 1996)。普遍主義の極は、西欧とは社会文化的文脈が異なる非西欧社会に市民社会概念を適用することを拒否する。しかし、非西欧市民社会についての研究で多数派を占めるのは、近代西欧で形成された市民社会概念を分析概念として非西欧的文脈に適用しようとする、（極端に厳格というわけではない）普遍主義的立場である。一方、文化／社会人類学者は、隣接学問分野の研究者に比して、相対主義にも共感を示してきた。中には、普遍主義と相対主義の間の道を探ることを提唱する者もある(Hann 1996)。市民社会研究では、組織的な形で具体化することがむずかしい市民社会の他の側面—信仰、価値観、日々の実践など—も軽視すべきではないと指摘されている(Azarya 1994:95-96; Hann 1996:3, 14)。その点、非西欧社会で民族誌的調査を行ってきた人類学者には、団体研究にとどまらない貢献を非西欧市民社会研究においてなすことが期待できるのではないか。

ところで、今日の非西欧市民社会が置かれた状況を考える上で無視できないのが、国境を越える人の移動である。交通手段や情報技術の発達により、人々は以前より容易に越境的紐帯を維持することが可能となり、その社会的基盤と団体生活が越境社会領域に存することもある。フィッシャー(Fisher 2010:256)が論ずるように、市民社会の諸過程の微細政治を解明することができるかどうかは、国内あるいは越境的に多重的紐帯をもつばらばらの場所として、市民社会をみることができかにかかるといえよう。しかしながら、人の移動に伴う非西欧市民社会の越境的動態についての研究は未だ十分とは言えない。

市民社会の越境的動態というと、多くの人が思い浮

かべるのは、国際的 NGO などの活動に注目する世界市民社会研究であろう。確かに、多くの国際的 NGO の活動領域は非西欧市民社会にある。しかし、国際的 NGO の運営主体は活動領域からは離れた場所に拠点を置く援助団体ないし援助国であることも多く、それらが活動対象の人々ではなく援助団体ないし援助国に対して説明責任を持つことなども指摘されてきた(Kamat 2003:65)。従って、国際的 NGO は市民社会の越境的動態に関わるアクターの一つではあるものの、その研究を以て全てが解明されるというわけではない。

以上の研究動向に鑑み、本分科会では、非西欧諸国から／への人の移動に伴う市民社会の越境的動態に焦点を当てる。植民地支配や国際的 NGO の活動、受入国の「寛容」な政策などの対象としてのみならず、自らの目的を達成するため行動し社会的価値を定義し構築する主体としての移民にも注目することで、市民社会の越境的動態に関する研究に一つの突破口を開くことを目指す。

本分科会が解明を目指すのは、以下の二点である。

① 非西欧社会から／へ越境する人々の市民社会の諸相

移民の市民団体の組織構造や活動、社会的諸価値の生産、送出／受入国との関係について考える。

② 非西欧社会から／への人の移動が市民社会の生態系(ecosystem of civil society, Edwards 2014: 32-33)に与える影響

ここでいう市民社会の生態系とは、所与の社会及びその地政学的かつ社会文化的環境において相互に干渉し合う市民団体と公共圏などから構成される体系である。受入／送出国の市民社会の変容や越境市民社会の生成などについて考える。

以上の事柄を解明する出発点として、本分科会では、民族誌的研究にもとづいて、在日ベトナム人の生活支援団体（野上）やタンザニア人商人の団体（小川）、在独トルコ系移民のイスラーム関連団体（石川）、中国朝鮮族とニッケイ（日系ブラジル人）の事例（岡田）、ネパール系移民の団体（上杉）などを取り上げ、発表する。

*本分科会の一部の発表は平成27-29年度科学研究費基盤研究(C)（一般）（研究課題名：「多重国籍・市民権とアジアの市民社会の越境的動態に関する文化人類学的研究」、研究代表者：上杉妙子専修大学文学部兼任講師、研究課題番号：15K03054）の成果発表の一環として行うものである。

キーワード 非西欧市民社会、移民、国家、市民社会の生態系、越境市民社会